

## I have a dream

1963年8月28日、マーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師がワシントンのリンカーンメモリアルの前で行った演説『私には夢がある-I have a dream-』から50年経ちます。黒人には選挙権もなく、『白人のみ-White Only』と書かれたサインが映画館やレストランの前に公然と掲げられていた時代、南部の州の公共バスでは黒人は後方にしか坐ってはいけず、決められていた時代から50年。果たして米国はどれほど変わったのでしょうか？黒人の大統領が誕生し『平等なアメリカ』になったのでしょうか？

日本でも報じられましたが、数ヶ月前にフロリダの住宅街 (gated community) で16歳の少年がスナックを買いに夜、知人宅から外出したところ、警備ボランティアの見張りに後をつけられ、格闘となりその少年は銃で撃たれ命を失いました。素手の少年、トレイボン(Trayvon)は黒人。所持していた銃で撃ったジョージ(George)は白人です。裁判の結果、ジョージは、自己防衛が認められ無罪放免となりました。この裁判結果をめぐって大きな波紋が全米に広がりました。もし撃った男が黒人で撃たれた男が白人でも裁判の結果は同じであったであろうか？なぜジョージがトレイボンを目撃して「あやしい」と思ったのだろうか？トレイボンが白人だとしたら「あやしい」と思ったか？多くの問いが残る悲しい事件です。このような事件は今までも何回も繰り返されてきました。肌の色による差別がこの事件の背景にあったことを否定できる人は少数でしょう。警官に質問されたら逆らわないように、答える時は両手をポケットから出すように、黒人の母親たちは息子たちにこのような注意事項を与えている、それでも黒人の男性たちが身の安全を守るのに十分ではない日常。

リンカーンの奴隷解放宣言が歌い上げた「すべての人の自由」はまだ実現されていないと説くキング牧師は、「後ろを振り返らず、希望を持って前進しよう」、とリンカーンメモリアルを埋め尽くした民衆に訴えました。次のイザヤ書40章の数節をキング牧師はこの演説の中で引用しています。

主のために荒れ野に道を備え  
わたしたちの神のために荒れ野に広い道を通せ。  
谷はすべて身を起し、山と丘は身を低くせよ。  
険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。  
主の栄光がこうして現れるのを  
肉なる者は共に見る。

ご存知のように共観福音書は、このイザヤ書を洗礼者ヨハネの道備えのメッセージとして引用しています。肉なる者、すべての人びとは共に主の栄光を仰ぎ見るのだ、その日が必ず来る、とそれが自分の夢だと語ったキング牧師。キング牧師の夢を支えたのは神のみことばであったことに改めて思いを馳せています。わたしたちのためではなく、神のために、主のために、という信仰と希望が“I HAVE A DREAM”演説でした。

神の国の実現に向けて神さまが必要とされているのはキング牧師であり、トレイボンの死を無駄にしてはいけずと声を挙げて人びとであり、「神のために荒れ野に広い道を通せ」と呼びかけられているのは私たちひとりひとりなのです。

来る8月24日にはリンカーンメモリアルの前で50周年の平和行進、集会が計画されています。「これは記念行事ではなく、キング牧師の夢の実現のための継続行事である」と語る主催者側の言葉を心にとめたく思います。ニューヨークからはもちろんのこと全米から多くの人々がキング牧師の夢に参加するべくワシントンに向かいます。神の国の実現に向けてその日ワシントンに吹き渡る聖霊の風が、世界の隅々にまでゆきわたりますように。

## 例会報告

### 2012年9月の例会

9月12日

出席者：森泉弘次、澄江、阿部、元村、三浦

キャンドル会方式による聖研

聖書の箇所は、ヨハネによる福音書第2章1節から12節（カナの婚礼）です。

ガリラヤのカナで、イエス様がおこした最初のしるし、水をぶどう酒に変えたお話です。

キャンドル会方式の聖研ですので、それぞれが、1節1節にマークをつけました。

マークはキャンドルのマークは感動した、光を感じた箇所に、十字架のマークは胸に突き刺さるような痛みを感じた箇所に、↓マークは納得した箇所に、！マークはびっくりした箇所に、？マークは疑問に感じた箇所や問題にしたい箇所につけます。

各自どのようなマークをつけたかを報告しました。それぞれ違ったマークがついたり、同じであったりと、皆で分かち合いました。

共通してキャンドルのマークがついた箇所は、5節の『母は召し使いたちに、「この人が何かを言いつけたら、その通りにしてください」と言った。』と11節の『イエスはこの最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。』この2箇所です。母マリアがみせたイエスへの信頼に感動しました。神様の栄光を表す奇跡をイエス様が、伝道を始めたガリラヤの地で行った。ぶどう酒は人の心を喜ばすと、詩篇104章15節にありますように、婚礼という祝いの席で、イエス様が多くの人を喜ばした奇跡、神の愛を示されたことに感動し、光を感じました。

(三浦万都美)

### 10月の例会

10月17日「トルストイの民話」森泉弘次

出席者・三浦万都美、元村多恵、竹内紀子、森泉弘次、澄江 5名

テキスト・岩波文庫版「トルストイの民話」その他

久しぶりに竹内さんが出席した。最初に「イワンのばか」の前半を出席者交互に音読した。後半は視覚障害者のための朗読の経験を積んでいる竹内さんに岩波少年文庫版のテキストを通して朗読してもらい、全員で聞いた。そのあと森泉から簡単に解説があり、全員で話し合った。

トルストイの民話は完全な創作ではなく、長い間ロシアの民衆の間に伝承されてきた「イワンのばか」を踏まえ、それに独自の視点から手を加え、豊かな意味をはらむ別な長編物語にしたものである。トルストイの作品と伝承作品との差異の一つは、イワンに豊唾者の妹がいて、兄たちからばかにされるイワンに協力して骨身おしまわず働く魅力的な妹マラーニャが登場することである。イワンのような人がくりかえし「ばか」呼ばわりされることに傷つくという、もっともなヒューマニズム的な意見が出た。作家は同時代の偏見をそのまま用いながら、物語の展開を通して「本当のばかは、ばか呼ばわりされるイワンと妹か、それとも利己心が強く、容領のいい兄たちか」という問いに決着をつけている。その他実り多い対話ができたとと思う。

(森泉弘次)

### 11月の例会

11月28日

植松功さんをお迎えしてテゼの会

出席者：植松、森泉弘次、澄江、広内、塚田、坂下、阿部、辛島、三浦

お話のはじめに、植松さんが、私は選挙が始まると、いつも選挙のために祈ります。皆さんはいかがですか？とたずねられました。

政治、外交が神の国への道をつくるので、実現するために、祈りの力を信じて、みなで祈ることが大事であるとお話になりました。

神様の御心が通る人を選ばせてください。と祈りましょう。と言うことばに、選挙にあまり関心をよせないことはよくないと考えさせられました。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

(ローマの信徒への手紙12：15)

そのうち植松さんが色々な集会などで、参加者の宿を探されるのに最近苦労されている。教会の器が立派になっていくに従って、逆に神様の名のもとに集まる人々を受け入れにくくしているのではないか。本当に自由に、テゼの会を始め、様々な形でおはたらきを続けていらっしゃる植松さんの静かな声でした。

「聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。」

(ローマの信徒への手紙 12：13)

(三浦、阿部)

### 12月 クリスマス会

MJMクリスマス礼拝報告

12月5日

土橋晃牧師が新生教会の礼拝順序と同じ形式の週報をMJM東京のために作って下さり司会土橋牧師、奏楽佐藤光子で礼拝を守った。参加者は阿部、坂下、三浦、三露（新生教会会員）、元村、森泉夫妻、佐藤。

配餐の係りを森泉澄江さんをお願いし聖餐式をいつもと違うメンバーで共にパンとぶどう酒（葡萄ジュース）を頂くのは新鮮な気持ちで心豊かにされる。聖書はマタイ1：18～25を拝読する。

説教「クルシミマスからクリスマスへ」現代のクリスマスは楽しいお祭りとなりクリスチャンであってもなくてもお祝いするがイエス誕生の時代はマリアにとっても夫ヨセフにとっても事実を受け入れるまで悩み、苦しみがあったに相違ない。しかし神様への信頼が彼らを支え導いた。私たちも人間の常識の枠にはまることなく神様の大きなご計画を信じて生きたい。心からイエス様の誕生を喜び祝うメッセージを頂いた。

礼拝後は小部屋でランチを楽しく頂き恒例のプレゼント交換もにぎやかに14時近くまでクリスマス讃美歌を何曲も歌って祝会を終わった。

(佐藤光子)

## 2013年1月の例会

1月16日

坂下千郷さんによる 「新リンパ療法の紹介」

参加者：森泉澄江、佐藤光子、三浦万都美、阿部園子

坂下さんの西新宿の診療所にお伺いして、最初はお話をうかがい、そのあとは一人一人実際に体を触っていただいて治療的なことをやっていただきました。

みんなそれぞれ体のあちこちに不具合を抱えていて、坂下さんの指摘に納得していました。その後みんなで昼食を一緒にして解散いたしました。

(阿部園子)

## 2月の例会

2月20日(水) 10時半より

日本キリスト教団三鷹教会にて、

お話し： 「サマリアの女」

ヨハネによる福音書 4章1～30節

三鷹教会 平池芳樹牧師

出席者： 佐藤、三浦、森泉夫妻、山根

このヨハネ福音書だけが、サマリアで女の人が最初の伝道者として召されたことを伝えている。教会として大切なのは信者が絶えずイエス様を見ていること、自分の中にイエス様を感じていること、一人一人がそれぞれの中にイエス様を意識して生きることではないか。

(山根弘子)

## 3月の例会

3月29日(聖金曜日) 12:00～

受苦日礼拝・十字架の道行

大森聖アグネス教会

出席者：森泉弘次・三浦万都美・阿部園子

ここ数年大斎節のクライマックスの聖金曜日の受苦日礼拝を大森聖アグネス教会で教会の皆さんと MJM 東京の皆さんと一緒にお捧することが恒例になっております。

聖公会以外の方は、イースターを前に十字架の道行の礼拝をお捧することを楽しみにして下さっているようでアグネスの神崎和子司祭を始め教会員の皆様も MJM 東京の皆さんとの交わりの時を楽しみにされています。

馬込文士村の静かな住宅街の中にある聖堂で、イギリスで購入された落ち着いた歴史のある十字架の道行の絵に留まりながら、今年も皆さんと一緒に受苦日を過ごすことができました。感謝です。

(阿部園子)

## 4月例会

4月19日 10:30～

管区事務所会議室

出席者：山本祐靖・森泉弘次・三浦万都美。阿部園子

テーマ：キリスト教における神秘性、奇跡、秘跡と迷信について

担当の山本氏よりテーマと共に次のような投げかけが。例えば5000人の食べ物の奇跡をどう考えますか？

三浦：「実はそれぞれ食べ物を持っていた」ということを言う人もいるが、イエス様がおこした奇跡を人間の行為で説得しようというのはいかかなものか？

阿部：イエス様の言葉で満たされたのではないか？

山本：「よいお話だった」で5000人もの人が文句もいわず納得するだろうか？

阿部(感想) 最近某教会で、礼拝後の食事を巡る話し合いで議論沸騰。30名位でもこんなに食事でもめるのだから、5000名全員が納得したのだろうか？という山本氏の問いに「納得するわけがない。」

つまり結論は5000人の人を納得させる素晴らしい食事が実際に振舞われたということになる。という山本氏の論理に納得。

山本氏はカトリックのマリア昇天なども、マリア様は特別な方だからそういうこともあったのではないか？

いろいろ皆から意見が述べられたあと、我々クリスチャンは、様々な奇跡を「分からないけれど信じている」のではないかと山本氏から。

少し議論が発展して

「何故悪いことが理不尽な形で起こるのか？」

あるカトリックの神父様は「分からない。しかし、それでもそうして傷ついた時に信仰が支えてくれるのではないかと？」とおっしゃる。

それに対して、教会から遠ざかった人たちは「本当に自分がつらい時に教会は何もしてくれなかった。」こういう言葉は教会生活を送る者としてきちんと答えていかなければならないことだと思う。

話はどんどん、聖公会、カトリック、教団の問題点にまで発展し、4人で多くのことを分かち合うことが出来ました。

(阿部園子)

## 5月の例会

5月17日すがすがしい春の朝、新生教会で5月例会を持った。出席者は阿部、NYから前日NYから到着して参加の景山、三浦、森泉夫妻、佐藤。土橋牧師からイエスが女性とどのように関わったかお話を聞きその後それぞれの印象、考え、意見が続出、盛り上がった会となった。

\*マルコ16:1～8ではイエスの十字架を遠くから見守り最後まで見届けた女性たちの姿がある。彼女たちは愛するイエスに捧げるため埋葬のため香油を準備して安息日のあけるのを待った。男性の弟子たちが逃げ去ってもイエスの死を見届けた彼女たち、イエスと同様ローマに反逆する者として捕らえられても不思議でない状況の中で彼女たちは勇気を持って行動している。

イエスの墓を一番早く訪ねたのも女性たち、死刑になった人を訪ねることは危険であり人目を避けて朝早く墓に行った。その間男の弟子たちはどうしていたか。恐れと絶望と自己嫌悪で皆ゴルゴダの丘から逃げ去っていた。

一番に復活のイエスにあったのも女性たち。罪深い女として烙印を押されていたマグダラのマリアはイエスの死、埋葬、復活すべてに登場している。差別され社会に受け入れられなかった彼女はイエスとの出会いによって古い自分を捨て生き始める。社会はよみがえりのイエスの証人として新しく生まれかえった彼女を受け入れていく。

\*パウロの言葉。「すべての人はイエスキリストによって平等である。性差、社会的地位、人種の差別はない、皆イエスキリストを着ている。キリストにおいて1つである。

当時の男性中心主義社会に生きる男性記者の視点で聖書は書かれているが男性の弟子が皆イエスを捨てて十字架から逃げたことを正直に描いている一方で無視され差別されていた女性達の勇気ある信仰を無視することは出来なかった。復活のイエスにはガリラヤの日常生活の中で出会うことが出来た。ガリラヤのイエスを思い出し生前のイエスに会うことが復活の恵みである。十字架の死、墓での天使との出会い、そして復活、すべての重要な場面で女性たちが一番初めにイエスにお会いしている。神様の恵みは虐げられていた弱い女性たちに一番にあたえられた。

\* 恭子さんのお話

女性の使徒マグダラのマリアは神様のメッセージを頂いた。(ヨハネ20章)

ルカ福音書には女性の弟子の存在がはっきりと書かれている。彼女たちはイエスの一行について歩きお世話係りをしていたのではなく男性の弟子たちと同様伝道者である。病気の姑を癒された記事もすぐに「元気になる一行をもてなした」とあるが現在使われる「接待する」の意味ではない。

\*\*\*\*\*

土橋先生が女性に関連した本を紹介して下さった。「聖書女たちの物語」「森の女たち」「女性たちとイエス」など。女性神学者の絹川久子さんの本を読むと女性が人権を無視され不当に扱われてきた歴史がよく分かる。無名の女性たちの歴史とも言える。しかし人には忘れられても神様は覚えていてくださる。

会が終わり土橋先生も交え恒例のうなぎやさんで食事。活発な会となり感謝です。

十字架の死、墓での天使との出会い、そして復活、すべての重要な場面で女性たちが一番初めにイエスにお会いしている。神様の恵みは虐げられていた弱い女性たちに一番にあたえられた。

(佐藤光子)

## 6月の例会

6月20日 10時30分より

聖アンデレ教会 聖書を学ぶ会 旧約聖書編  
出席者：森泉弘次・森泉澄江・坂下千郷・阿部園子

出エジプト記 20章20節～23章19節

契約の書とは、日常生活一般の秩序に対する関心を示したもので、共同体全体に対してイスラエルの律法の概念と原理を伝えるもの、そして十戒の基盤となるものである。具体的には共同体の秩序を保つための権利や義務が記されているが、それはあくまでこの共同体のなかで創造の秩序、神の業をどう表すかということである。

まず、祭壇規定が記されている。祭壇については神様の賛美の為に神様の栄光を表すために礼拝につかうものである。律法全体はイスラエルにとって神が唯一神であることが中心となる。祭壇は神の主導によって建てられ、その

場所でこそ神が顕現し、神の名が唱えられ、祭壇そのものが神に属する。

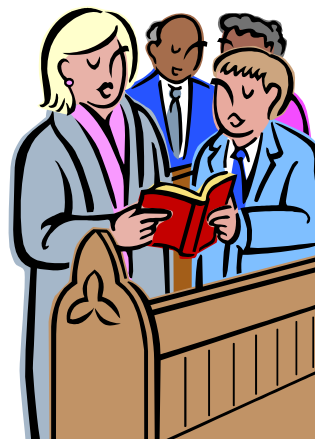
次は奴隷についての律法が示されている。祭壇法と次に記されている死罪についての法の間に記されている。神についての法のすぐ後に、束縛されている人間の問題が取り上げられているということになる。これはハムラビ法典など、他の法典見られない順序であって、自分たちがエジプトの地で奴隷状態にあったことが大きく影響しているようだ。

10時半にはアンデレの皆様きちんと着席され、笹森司祭のこの会の人気の高さを象徴しているようである。

つい最近 NY に行かれ Lloyd 司祭と共に日本語礼拝を司式された笹森司祭より、MJM のご紹介にあずかり、MJM 東京の事も詳しく説明して下さいました。写真も見せて下さり、Lloyd 先生のお元気そうな様子も拝見することができて感謝です。笹森司祭のお父様は実は Lloyd 先生の教え子だったそうで、本当に神様のお恵みを感じる聖書会でした。

旧約聖書を笹森司祭のもとじっくり読みすすめていらっしゃるアンデレの皆様。森泉先生より思わず「お幸せですね」という言葉が。MJM 東京からの参加者全員の感想です。

(阿部園子)



## 7月総会

7月3日 10:30～

管区事務所会議室

参加者：森泉弘次、森泉澄江、佐藤光子、元村多恵、  
三浦万都美、阿部園子

### 1. 本年度の例会報告

本年度の例会に出席した皆さんより、いろいろな感想が語られました。

そこで、森泉先生より2012年度の例会は申し合わせたわけではないが、「女性」をテーマとする聖研が多かったように思われる。一年を通して、何かテーマのようなものを念頭に置いて、聖研を行ってはどうか。という提案がなされました。もちろん例会がそのテーマに縛られるのではなく、年間を通しての、MJM 東京のメンバーたちで

そのテーマを考えていき、各自の考えを分かち合おうということになりました。

2013年度のテーマは“**神の恵みとしての自然**”ということになりました。今年1年お互いに聖書を読む時や、お祈りの時に“神の恵みとしての自然”を考えながら皆さんと恵みに満ちた時を過ごすことができればと思います。

## 2. 2013年9月からの例会の日程

7月の総会で話し合われた例会ですが、すでに9月、10月は日程が決まっております。9月は担当の元村さんの都合で7月の総会の時の日程から変更されております。お間違えの無いよう9月4日、スケジュールにマークしてください。

また、阿部がバルセロナ駐在中参加していたバルセロナ日本語で聖書を読む会が、最近鑑賞会を行った映画「**ヤコブへの手紙**」。素晴らしい映画とバルセロナでも好評だったということで、本年度どこかで**鑑賞会を実施**しようということになりました。ご興味のある方は、早めにお知らせいたしますので、是非一緒に素晴らしい映画「ヤコブへの手紙」を鑑賞いたしましょう。

## 3. 会計報告

会計報告が元村さんよりありました。本年度もMJMNYに献金をお捧することになりました。MJMNYも困難な時を迎えられているようです。我々MJM東京のメンバーもお祈りに覚えていきましょう。



## 2013年9月からの担当予定

9月4日(水) 10:30~

キャンドル会式聖研

ヨハネによる福音書 20章 19節~29節

神楽坂の管区事務所会議室にて

10月18日(金) 10:30~

植松 功さんによる「テゼの会」

神楽坂の管区事務所会議室にて

11月 担当：塚田央子

12月4日(水) クリスマス会

担当：元村多恵・山添圭子

## 2014年

1月 担当：山根弘子 三鷹教会にて

2月 担当：調整中

3月 担当：森泉弘次 『フランチェスコと良寛』

4月18日(金) 受苦日礼拝

大森聖アグネス教会にて

5月 担当：佐藤光子 新生教会にて

6月 担当：元村多恵 聖アンデレ教会にて

7月 総会 管区事務所にて

TEKNA クリスマス号 調整中

イースター号 皆さんによる投稿

8月号 阿部園子

